

ウィズコロナの園芸福祉

新型コロナウイルス感染症により、多くの園芸福祉活動が中止や延期を余儀なくされました。毎年開催されていた園芸福祉シンポジウムもこの2年間開催が出来ていません。このような状況の中、関係者が創意工夫し続けてこられた園芸福祉活動もたくさんあります。

そこで、令和3年11月14日、“コロナ禍における園芸福祉の実践活動からコロナ後を探る”をテーマに実践事例紹介とディスカッションによる「第1回オンラインシンポジウム」を開催いたしました。

実践事例紹介では、愛媛県在住の北舂永さんに「地域の高齢者との活動」、鳥取県在住の後藤厚見・博子さんご夫妻に「高齢者施設での活動」、埼玉県在住の安田真澄さんには「精神科デイケアでの活動」をご紹介いただきました。

- ・地域の高齢者の行き場所や仲間づくりが目的の活動を中止すると物忘れがひどくなる。体の調子がよくない。など、健康に影響することが明らかになったので数回中止した後再開した。
- ・高齢者施設では、外出する機会が無くなったので、室内でできる園芸は良い潤いをもたらす大切な場となった。
- ・精神科デイケアでは、必要不可欠なリハビリテーションとして重要性を再認識し中止することはなかった。

など、活動を維持継続する意義を語って頂きました。ディスカッションでは“コロナ禍における園芸福祉活動の役割と留意点”をテーマに吉長成恭理事長を進行役に発表者3名との活発なディスカッションが行われ、園芸福祉活動は誰にとってもなくてはならない、かけがえのない活動であることを再認識できました。発表者と参加者からの感想をご紹介します。（事務局次長 渋谷雅史）

発表者からの感想

北舂永さん

先日は、シンポジウムに参加させていただき、ありがとうございました。全国に、園芸福祉活動をされている、先輩であり、仲間がこんなにいらっしゃるんだと、嬉しくなりました。先生方や発表者の方のお話も興味深く、とても刺激になりました。自分たちの活動を立ち止まって、振り返ることができ、シンポジウムで発表させていただけたこと、本当に感謝しています。これからも、園芸福祉活動を楽しんで続けていきたいと思っています。ありがとうございました。

後藤厚見さん・博子さん

Zoom は聴く側で数回使いましたが発表する立場で且つパワーポイントを使用しての利用は初めてで良い体験でした。集合してのシンポジウムと違い、雰囲気がないので少し物足りない気もしましたが自宅に居ながらにして全国の皆さんとの交流も有かなと感じました。コロナ禍が収束すれば新たな気持ちで園芸福祉活動に励みたいと思います。また、集合形式でのシンポジウムでもオンライン併用も検討して下さい。

安田真澄さん

初のオンラインシンポジウムにて活動紹介の機会を頂きました事、協会事務局並びに会員の皆様に感謝申し上げます。移動や行動が制限される昨今、幸いにも園芸福祉活動を継続できております私達の活動、また園芸福祉の必要性、重要性を少しでもお伝えできればとの思いでの紹介でした。普段なかなかお会いできない遠方の会員の方々とも画面越しにお会いする事ができ、オンライン開催の魅力や利点を存分に愉しむことができました。

オンラインシンポジウムに参加された方のご感想

直江秀一郎さん 東京都昭島市<20-002>

資格を取得した後、初めて参加させていただきました。新型コロナウイルス禍での園芸福祉活動に関心があり、活動をする基準、施設利用者や保護者の理解等について、質問させていただきました。独自の基準を設けたり、関係者に説明されるなど、皆様、大変苦労されていることを感じました。とりわけ、「活動しないほうがむしろマイナスになる」というご意見に、交流や生きがいがづくりといった園芸福祉の役割を改めて感じさせられた次第です。



遠藤知賀子さん 大阪府堺市<06-560>

参加動機は、NPO 法人土と風の舎 渋谷 雅史さんのお話を聞いた事、欧州園芸福祉事情視察での感動がよみがえり、今の園芸福祉にふれたいと思ったため。がんサバイバーになり、病院の庭ボラから医療+QOLの「場」づくりへ。今回の学び「生活者発想・視点」「地域・社会課題」「まちづくり」を×と「早期からの緩和ケア」へつながりターニングポイントへ。みなさんとお会いできる機会が増えそうに楽しみにしています。

進藤文典さん 広島県呉市<08-064>

初めてオンラインの会議に参加しました。対面ではできないような他方面の方々のご活躍を知ることができてとても有難かったです。各位がお話をされている時に画面にどの団体の誰が何を話されているのかがわかるテロップが見えるとありがたいです。Q&A ももう少し時間があるといいですね。更に、初級園芸福祉士養成講座もオンラインでできると参加費の低減他メリットがるかもしれません。



プログラムの紹介

流木多肉 多肉植物の寄せ植えの作り方ををご紹介します。庭先などの古木や河原の流木など、様々な工夫で植物との組み合わせを考えてアレンジを楽しめるのが魅力です。流木の形状や、選ぶ多肉植物の種類で、世界に一つのアレンジが可能。育てやすく、見た目にも魅力的な多肉植物。ガーデニング初心者にもおすすめです。



材料 流木、多肉植物、水苔、ネルソル、糸、ハサミ、ピンセット、竹串、バケツ、麻紐かワイヤー（吊るすため）

作り方

- ①水苔を水につけ水分を含ませる。
- ②ネルソルに水を加えて粘り気が出るまで練る。
- ③流木にネルソルを乗せる。その上に、水気を切った水苔を重ねる。
- ④水苔で上の部分が覆われたら、糸を巻く。間隔が狭すぎると、多肉植物の入るスキマがなくなるので注意。
- ⑤ピンセットや竹串などでスキマを空け、多肉植物を入れ込む。葉や茎が折れやすいので注意。

このプログラムは北舩永さんがオンラインシンポジウムで紹介されたものです。